

創立1998年5月25日 承認1998年6月3日

Tokyo Riverside Rotary Club

例会 毎週金曜日12時30分(第5金曜日のみ18時00分) 上野精養軒 Tel (03) 3821-2181

事務局 東京都荒川区町屋2-2-15 プリメーラ O.D.A301 Tel(03) 5810-6221

E-mail riverside-rc@riverside-rc.jp URL <https://riverside-rc.jp/>

会長 下川 芳延

幹事 西山 尚史

「よいことのために手を取りあおう」

「奉仕の継続」

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツォ会長

東京リバーサイドロータリークラブ

例会No.1213 2026年6月12日

上野 精養軒 2F「藤の間」

♪ロータリーソング「日も風も星も」

○クラブ協議会：「2025-26年度活動報告」

発表：西山 尚史 幹事

○誕生祝：下川 芳延 会長

伊澤 英敏 会員

内藤 裕二郎 会員

熊井 昌一郎 会員

○年間出席表彰：小根澤 美和 会員 6/2(9回)

水谷 友哉 会員 6/2(11回)

メニュー

カツサンド

【 次の例会 6月19日 】

上野 精養軒 2F「藤の間」

○卓話

「歯ブラシ一本からできるボランティア活動」

新井 弘幸 様(東京臨海東 RC)

誕生祝：笠島 伸介 会員

長谷川会員ご夫人(由香利さん)

メニュー

ハヤシライス

【 前回の例会 6月5日 】

上野 精養軒 2F「藤の間」

○会長報告

・「ロータリー財団フォーラム」

“ジェニファーさんと大いに語ろう”

【 6月：ロータリー親睦活動月間 】

8/21(金)14:00~17:30

於：ニッショーホール

会費：6000円

・管理委員長ご夫妻歓迎会

場所：ホテルオークラ東京

プレステージタワー1F

時間：18:00~20:45

会費：28,000円

(ドレスコード：スマートカジュアル)

ご参加希望の方は事務局までご連絡をお願い致します。



米山奨学生孫 赫峻さん 6月の奨学金お渡し

出席報告

会員数	出席数	欠席数
37	25	12

☆ ビジター数3名 累計4,001名

北久保 隆一 様 卓話者(東村山 RC)

夏井 淳一 様 (卓話者同行者)

孫 赫峻 さん 米山奨学生

ニコニコBOX

下川 芳延 会長

私の不注意により怪我をして皆様に大変なご心配をさせて、申し訳ございませんでした。また、本日の卓話、北久保様楽しみにしております。

瀧井 雅代 会員

下川会長、ご無事で何よりです。早く完治するよう、ニコニコしておきます。

小根澤 美和 会員

下川会長一日も早い回復を祈ります。

大石 賢代 会員

下川会長の怪我が早く治りますようにとニコニコします。

伊澤 英敏 会員

下川会長、もう少しです。頑張ってください！！

有賀 雅雄 会員

誕生祝に美味しいアイスクリームを頂き有難うございました。

辻村 光則 会員

69歳になりました。誕生日のお祝いに美味しいアイスクリームが届きました。有難うございます。

中野 能克 会員

先日のリバーサイド親睦ゴルフコンペは楽しい一日になりました。会長賞のワインを頂き有難うございました。

中原 修二郎 会員

5月29日誕生祝い、頂き有難うございました。47歳になりました。

ニコニコ BOX	49,000円
2025~2026年度 累計	1,541,000円



年間出席表彰
5/23(1回)





卓話「道路交通から見たラジオ放送の世界」
北久保 隆一 様(東京東村山 RC)

皆さんこんにちは。ここはロケーションが最高ですね。お食事も美味しくいただきました、ありがとうございます。
東京東村山ロータリークラブの北久保と申します。どうぞよろしくお願い致します。
本日は、友人の夏井純一さん（東京バリアフリーロータリークラブ）にもご縁があって、3年ぶりにお越しいただいております。どうぞよろしくお願い致します。
少し足が悪いものですから、座らせていただいております。失礼いたします。はい、お待たせいたしました。
それでは、タイトルは「道路交通情報から見たラジオ放送の世界」ということでお話します。
幹事さんが地区の卓話リストをご覧になって、「ラジオ、俺も好きだよ。ちょっと聞こうか」と言ってくださったと伺いました。ありがとうございます。
笑っていただけたところも多いと思いますので、遠慮なくどうぞ気楽にご覧ください。

あああ、聞こえますか。
「JOAK、こちらは東京放送局です。ただいまより放送を開始いたします。」
これは1925年3月22日、日曜日の朝9時半今のNHK、竹尾アナウンサーが発した、我が

国で最初のラジオ放送の“第一声”だそうです。最初は「あーっ」と声を出したそうですね。今はテレビが主体ですが、テレビ以前はラジオが一番の娯楽、家の一番の楽しみでした。テレビが登場したのは1953年です。

「君の名は」、ご存じの方いらっしゃいますか。これはラジオドラマで、原作は菊田一夫、音楽は加藤有三さん。それから浪曲の広沢虎造「森の石松」。お聞きになった方、いらっしゃいますかね。80代くらいでしょうか。朗読では徳川夢。これは私が子どもの頃、父が茶の間でラジオをつけて、立ったまま聞いていたのを覚えています。それで私が朗読好きになったわけではないんですが、すごく迫力がありました。

「赤胴鈴之助」。このあたりだと、まだお若い方はご存じないかもしれません。今でいうTBS、昔はラジオ東京と言っていました。実は私、東村山に住んでいた頃、TBSにハガキを書いて応募したんです。赤胴鈴之助に出演したくて。そしたら「遠いから」と断られましたね。もし受かっていたら、相手役があの吉永小百合さんだったかもしれないですよ。どうなっていたかわかりませんね。それから、第二中学校。ここに志村けんさん、当時は志村康徳さんがいました。私は3期生、彼は4期生です。

その頃、NHKの「僕も私も名探偵」という番組に出て、見事に犯人を当てて金メダルをもらったのを覚えています。

今、東村山駅東口には「志村けんの像」があります。2021年6月26日にクラウドファンディングで2,500万円ほど集まってJCが中心になって作られたものです。今でも全国から多くの方が見に来ています。

大学は國學院大學に進み、そのままアナウンス研究会で勉強しました。

これ、聞いたことがありますか。「外郎売（いろいろうり）」。アナウンサーや歌舞伎俳優、俳優さんが滑舌練習で使うものです。

「拙者親方と申すは…」

これを普通に読んでも5分。

歌舞伎俳優の方はこれを全部覚えるんですから、すごいですよね。

劇団四季の方なんか、もう見事で、足元にも及びませんでした。

35歳で交通情報の世界へ。

そして私が35歳の頃。(写真)

全然違うでしょう？ この頃はモテましたよ。(ここ、笑っていただくところです)

これは九段下の九段ビルというところで撮っ

たものです。

日本道路交通情報センターは1971年4月に設立され、私はその翌年に採用されました。

いわば“2期生”ですね。

私は長男で、東京東久留米に先祖から多少の土地がありまして、家を守らなければいけない。弟が2人いて、好きなことばかりやっていましたから、私も「好きなことをやろう」と思って、子どもの頃から好きだったラジオのアナウンスの道を選びました。

ただ、地方に行くと戻ってこられない。

それで東京で喋る仕事を探して、選んだのが道路交通情報だったんです。

運よく2期生で採用されました。

「東京と名古屋、どっちがいい？」と言われて、「どちらでも」と言いながら、「東京でお願いします」と言いました。

なんとか無理して東京にさせていただき、九段センターで勤めました。

そもそも日本道路交通情報センターというのは、今は全国組織で、北海道から沖縄まで、すべての県に交通管制センターがあり、そこから道路交通情報を発信しております。

このセンターができたのが1970年、今から約45年前です。この設備が作られた理由は2つあります。1つは「北川のバス転落事故」。

これは、バス事故としては最大で、一度に104人が亡くなりました。岐阜県の北川という川の濁流に観光バス2台が転落した事故です。

もう1つは、1970年の「大阪万博」。

77カ国から、のべ6,400万人を超える人が訪れ、日本最大のイベントでした。

車がどう流れるのか、どう捌くのが大問題となり、そこで日本道路交通情報センターを作って、道路交通情報を円滑に捌こうということになりました。

道路交通情報と言っていますが、「道路」と

「交通」は違います。道路は路面や施設の話。交通は“流れ”のことです。ですから交通の中には、新幹線、電車、航空機、船舶など、移動に関わるものすべてが含まれます。

日本道路交通情報センターには歴史があります。今は職員が200人ほどおりますが、ほとんどの人が知らないのが、センターができる前から、すでにラジオで交通情報が流れていたということで歴史です。これは本当に、私ぐらいしか知らないんですよ。

1957年(昭和32年)、文化放送さんが深夜放送で、レコード音楽に乗せて交通情報を流していました。

これがラジオで流れた最初の“交通に関わる情

報”です。そして1959年（昭和34年）。ラジオ関東、今のRFラジオ日本。今日いろいろお話ししますが、この1959年昭和34年だけは覚えていただきたい。というのは、“車の流れ”を初めてラジオで伝えたのが、このラジオ関東だからです。しかも、たった1か月半、土日だけ。それまで、湘南方面に車がどんどん入ってくると、お巡りさんが縦看板を立てて「湘南は車がいっぱいです」と書いていたんです。多分、気の利いたお巡りさんが「今ラジオでやってるいから」と横浜のラジオ関東本社に行き、掛け合ったんでしょうね。この方の名前は残っていませんが、すごい方だったと思います。1961年（昭和36年）、日本放送が「交通統制センター」というものを提供しました。都内157か所の主要交差点の交番に、警察専用電話があり、そこから状況を音声で聞き、メモして、他と照らし合わせて現場に戻す。まるでヘレン・ケラーのように、音だけで状況を伝えようとしていた時代です。昭和38年（1963年）になると「交通情報センター」ができました。これは“渋滞表示”の仕組みです。交差点の外にある交番に、縦長のボタンが1〜4まで並んでいて、例えば神田神保町方面を見て、板橋の向こうまで車がつながっていれば「3」や「4」を押す。その色別の情報を交通情報センターに伝えていました。お巡りさんは地図案内もしながら、ボタンも切り替えなければならず、本当に忙しかったと思います。私も現場で一生懸命やっていました。昭和39年には東京オリンピック。昭和45年にはJARTIC（日本道路交通情報センター）ができ、私が入ったのもこの頃です。当時は、現場から押されたボタンの情報をそのまま見て喋っていました。朝は赤ランプがついていても、昼はガラガラなのに赤のまま。でも疑わずに一生懸命伝えていました。そういう時代でした。その頃、車はどんどん増え、月に1万台ずつ増えていくような状況。あちこちで車線が足りなくなり、交通状態はひどいものでした。「いだてん」という大河ドラマの時も、えらい渋滞でした。その後、現在の交通管制センター（新橋庁舎）ができました。

警視庁の建物の中にあり、警察官がずらっと並び、テレビカメラの映像を監視しています。左側には「車両感知器」。道路を走っていると、下にラッパのようなものがついているのを見たことがあると思います。あれが超音波で車を感知する装置です。これがなかった頃は、音声や目視で判断していたわけですから、今思うとゾッとします。黒電話からスマホに変わったくらいの革命です。今では全国的高速道路に、2kmおきに車両感知器が設置されています。情報を見るとき、皆さんはスマホで「ラジコ」やNHKの音声を聞いたり、「交通情報Now」で色別の渋滞情報を見たりしますよね。YouTubeでも高速道路の情報を提供しています。渋滞の定義は簡単です。高速道路は平均時速40km以下。首都高速は20km以下。一般道路は10km以下。よくテレビで「一般道と高速、どっちが早いかなんて検証していますが、やはり高速道路のほうが早いのです。合流が少ないですからね。お金を払う分、早いと思ってください。高速道路には「キロポスト」があります。100mごとに設置されていて、事故や故障があると、非常電話や管制センターから「〇〇キロポスト」と伝えます。ただ、ラジオではキロポストを言っても分かりません。ですから我々は瞬時に「〇〇インターと〇〇インターの間」と言い換えます。今は端末にキロポストを入れると「府中スマートIC付近」などと出てくるので便利ですが、新人は分からず、放送直前に慌てています。ラジオは音だけの世界。聞き手は耳だけで理解します。ですから、同音異義語や放送禁止用語、地名の読み間違いには細心の注意が必要です。神戸の「三田（さんだ）」を「みた」と読んでしまったり。昔は「どけん屋」「おまわり」「ちびっこ」など、今では言わない言葉もあり、クレームになりました。放送では、託された情報を“確実に”伝えることが大切です。楽しいこともありましたが、苦い経験も山ほどあります。地方では話せることも、ここではちょっと怖くて言えません。最後に川端康成『雪国』の朗読。